

## 平成30年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	10	学校名	広島県立尾道北高等学校	校長氏名	松井 太	全日制	本校
----	----	-----	-------------	------	------	-----	----

## 1 評価結果の分析

本年度行動計画15項目の自己評価は次の通りである。学校経営目標達成に向けて概ね順調に進捗している。

A	B	C	D
1 (6.7%)	10 (66.7%)	4 (26.7%)	0 (0%)

## 〈 1 課題発見・解決学習を推進し、主体的学びを深めるについて 〉

○カリキュラム・マネジメント委員会を月2回開催し、目標とする資質・能力の育成について評価し、機能的なカリキュラムの運用について検討する。	A	B	C	D
○生徒の主体的な学び、深い学びを育成する授業を実践する。	0 (0%)	2 (75%)	1 (25%)	0 (0%)
○「問う力」を育成し、授業評価で検証する。				
○ICT環境の整備を進め、効果的な活用による授業改善や業務改善を進める。 ・すべての教職員がICTを活用した授業を実践する。				

- ①成果 ○生徒に問いを立てさせる授業について、研究と実践を進めている。その結果、7月実施の授業評価アンケートでは、「問う力」の項目「この授業を受けて、疑問点や質問を自ら見出し、問いを立てるようになりましたか。」の得点率は71.2%で、目標の80%を下回った。  
○教員のICT機器の使用月平均は、147回(昨年度109回)であり、確実に増え、ICT機器(タブレット)を授業に活用することは日常化した。
- ②課題 ○カリキュラム・マネジメント委員会を中心とした「総合的な学習の時間」、「産業社会と人間」の見直しを進める必要がある。

## 〈 2 教科指導の力の向上を図り、生徒の学力を最大限に伸ばすについて 〉

○教科指導力を向上させる。 ・進研模試(7・1月)を指標とし、習熟度に応じた指導を行い、PDCAサイクルを機能させ、目標管理によって指導の改善を図る。 ・模擬試験結果分析を行い、その分析内容を授業、定期考査問題の作成等につなげる。(年3回) ・入試問題研究を行い、その成果を授業、入試問題セミナー、定期考査問題の作成につなげる。(7月以降) ○英語の外部試験GTEC等外部試験の受験に向けて、日常的に4技能育成の指導を計画的に行う。	A	B	C	D
	0 (0%)	4 (67%)	2 (33%)	0 (0%)

- ①成果 ○模擬試験分析会議・スタディーサポート分析会議を実施し、各教科・学年で分析した課題を共有するとともに、解決策の検討を行った。  
○8月までにセンター試験、難関大学二次試験、新しいタイプの入試問題について入試問題研究を行い、それに基づいて8月の入試問題セミナーで生徒に指導を行い、受験に必要な学力やすべきことを具体的に指導した。
- ②課題 ○1年7月進研模試の平均点偏差値は55.4(前年58.5)である。偏差値50未満の人数が47名(前年18名)であった。  
○2年進研模試(7月)の国・数・英の平均点偏差値は58.7(前年59.4)であった。(目標値61.0/1年1月59.9)

## 〈 3 高い志や夢を持たせ、進路希望を実現させるについて 〉

○探究活動、キャリア学習を充実させる。 ・「産業社会と人間」(1年次)「エクスプローラーセミナー」では、地域やグローバルに関する課題を発見する。 ・「産業社会と人間」(2年次)では、生徒の進路目標に応じて探究活動に即した訪問先を選定する。 ・「課題研究セミナー」(2年次)では、オープンセミナーや探究的・体験的な活動を実施し、具体的な研究テーマを設定させ、知の総合化を図る。3年次には探究活動をまとめた成果発表会を実施する。	A	B	C	D
	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)

- ①成果 ○1年次は、地域課題に取組、校外の大学の公開講座や体験学習に計65名が参加した。2年次は探究活動に即した訪問先を計68箇所訪問し、課題解決策を提言し助言・示唆を得ることができた。3年次はグループで探究活動を行い、課題探究発表会で成果を公開し、キャリア学習の評価で99%が肯定的評価となった。

〈 4 リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成するについて 〉

○時間・ルールを守る生徒を育成する。 ○全校生徒に対して、部活単位または個人で年に1回以上は参加をするようはたらきかける。 ○教育相談体制を充実させる。 ○不登校予防を行う。	A	B	C	D
	1 (33%)	2 (67%)	0 (0%)	0 (0%)

①成果 ○前期遅刻者数は、0.38人/日(32人/83日)である。昨年度0.48人/日(38人/78日)と比較し、減少した。PTA健全育成委員会との下校指導、あいさつ運動をそれぞれ3回ずつ実施した。

○特別支援教育会議を定期的に、プロジェクト会議を随時実施し、情報共有や対応協議をした。スクールカウンセラーの積極的活用をおこなうため、生徒や保護者の面談の他、1年次生徒への研修会の開催、会議への出席を定例化した。

〈 5 社会に信頼される学校づくりを推進するについて 〉

○生徒募集活動を充実させる。	A	B	C	D
	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)

①成果 ○オープンスクール参加者数は中学生382(343)名、保護者等230(215)名で、計612(558)名の参加で昨年より増加した。例年通り生徒が主体の企画、運営で行った。今年度は、暑さ対策も兼ね、体育館での学校説明を模擬授業教室(生徒)と多目的教室(保護者)に変更し、各教室別で生徒が中心に学校紹介を行った。体育館行事、学校説明、模擬授業はともにほぼ100%の肯定的評価を得た。「大変良い」の評価が、模擬授業で76.7%(67.0%)と増加した。

〈 6 働き方改革について 〉

○定時退校日における、勤務時間終了後30分以内の全員退校	A	B	C	D
	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)

①成果 ○ほとんどの教職員は、定時退校日を意識してその日の業務や前日、後日の業務を計画的に処理して、18時までには退校がしかりできている。

2 今後の改善方策

〈 1 課題発見・解決学習を推進し、主体的学びを深めるについて 〉

- (1) 11月の公開研究授業、互見授業等を活用し、課題発見・解決の授業手法を研究し、共有する会議を設定する。
- (2) 本年度の重点である生徒の深い学びにつながるICT活用に関する授業の開発及び実践事例の収集・蓄積について推進する。
- (3) 水曜教室は、定時退校日に設定した日であり、趣旨を変更してその時間を活用する。

〈 2 教科指導力の向上を図り、生徒の学力を最大限に伸ばすについて 〉

- (1) 自主的に学習する力を育てる教科指導のプロセスについて、教科ごとに設計し、シラバスの改訂を進める。
- (2) 教科指導において、基礎的知識・技能の習得の場面とそれを活用する課題発見・解決学習の場면을、単元ごとに計画的に設ける。
- (3) 全教科で、言語能力の育成を図る指導を行うこととし、教科書を自分の力で読むことを、アウトプット、協働する機会を増やす。
- (4) 大学や実生活、社会で求められる課題解決の力を見通した設問を増やし、情報活用能力を高める。

〈 3 高い志や夢を持たせ、進路希望を実現させるについて 〉

- (1) 校外・校内での自主的参加型の研修・活動を組織的に紹介・奨励し、評価する。
- (2) 生徒の活動実績についてポートフォリオ化を行い、定期的に振り返りを行わせる。

〈 4 リーダーに求められる道徳性や社会性を身に付けた豊かな心を育成するについて 〉

- (1) 生徒会執行部を中心に、遅刻防止の取組を進める。あいさつ運動を定期的に行う。【生徒指導部】
- (2) 毎月の「ライフガイドルームだより」の発行、「こころとからだの相談日」について、生徒や保護者に周知する。  
・引き続き、特別支援教育会議、プロジェクト会議等において気になる生徒に対して、早期に対応する。  
・2年次生徒への研修会を企画する。【健康教育部】

〈 5 社会に信頼される学校づくりを推進するについて 〉

- (1) 本校主催の入試説明会や中学校2年生対象の出前授業などで中学生や保護者のニーズに応じた内容を提供するとともに、本校生徒の懸命に取り組んでいる姿を伝え、生徒募集にもつなげる。【総務部】

## 〈6 働き方改革について〉

- (1) 毎水曜日の定時退校日では、17時30分までの業務終了、18時までには完全下校を徹底し、月80時間以上の超過勤務者に対しては管理職による面談を行う。

### 3 学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策

学校関係者評価委員会の総合評価はAであった。課題を適切に分析していること、社会に必要とされている人材を育てる新たな試みを指向していること、生徒が主体的に学ぶことができるように組織的に支援していることなどについて評価を得た。学校関係者評価がBであった項目については、引き続き改善を図っていく必要がある。

#### (1) 「目標達成に向けた取組の適切さ」について

- ・「グローバル人材の育成」に向けた新たな取組について

今年度から実施する、大学生との交流会、エンパワーメントプログラム、課題探究活動等について、生徒の変容を看取り、その成果について教員間で研修する機会を設ける。

- ・家庭学習時間が9月に減少する傾向について

9月に行う体育祭に関わって学習時間が減少する傾向にあることが考えられる。体育祭や文化祭に関しても生徒が積極的に活動し達成感を得ることによって、学習に対するプラスの効果も大きい。このため、次年度以降さらに生徒会行事を充実させることを進めるとともに、気持ちの切り替えを行わせることによってトータルでの学習時間確保も行わせていくように努めたい。

#### (2) 「今後の改善方策の適切さ」

- ・「問う力」を育成するための授業改善

授業や「総合的な学習の時間」の発表会などで、生徒自らが問いを立てることができるよう授業展開のあり方について研究と実践を精力的に進める。(批判的思考力・深い学び)

- ・「課題研究」の質的向上

総合的な学習の時間のプログラムの見直しを年内に完成させるとともに、課題探究の方法等について職員研修を行い、教員の指導力を高める。